

ラグビーワールドカップ2019™ 東京2020オリンピック・パラリンピックのレガシーとしての トップアスリートの活躍の場について

1 ラグビーワールドカップ2019™ 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた横浜ビジョン

平成28年11月、官民連携組織「ラグビーワールドカップ2019 東京2020オリンピック・パラリンピック横浜開催推進委員会」を立ち上げ、「ラグビーワールドカップ2019 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた横浜ビジョン」を策定しました。

横浜ビジョンの基本姿勢として、オール横浜で両大会の成功に最大限貢献するだけでなく、取組の成果を「次の世代への贈り物（レガシー）」として遺し、横浜のさらなる飛躍に繋げることとしています。

2 スポーツを通じて横浜を元気に

横浜ビジョンの取組の4つの柱のうち、2つの目の柱「スポーツを通じて横浜を元気に」では、両大会を契機に、地域スポーツや障害者スポーツをはじめ、さらなるスポーツ振興に取り組み、障害の有無や世代に関わらず子どもから高齢者まで全ての市民がスポーツや運動に親しみ、健康で心豊かに生き生きと暮らすことができる、元気な横浜の実現を目指していきます。

《取組の4つの柱（「ラグビーワールドカップ2019 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた横浜ビジョン」より）》

【柱1】両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし

【柱2】スポーツを通じて横浜を元気に

【柱3】文化芸術の創造性を生かしたまちづくり

【柱4】横浜を世界に魅せる

(1) 柱2の主な取組

- ・オリンピック・パラリンピアン、ラグビー日本代表等トップアスリートと小・中学生等との交流を通じた運動意欲の向上
- ・ラグビーワールドカップを契機としたラグビーの普及・啓発
- ・市内小・中・義務教育学校・高等学校・特別支援学校と連携した取組 等

(2) 取組から生まれるレガシー

- ・スポーツ実施状況の向上
- ・パラリンピック競技や障害者スポーツの普及・促進
- ・子どもたちの体力向上
- ・市民の健康増進

3 ラグビーワールドカップ 2019、東京 2020 オリンピック・パラリンピック関連事業における トップアスリートの活躍

(1) ラグビーワールドカップ 2019 関連

ア 小学校訪問事業

(ア) 概要

目的：大会に向けた機運醸成、ラグビー競技の普及

実施内容：トップアスリートからの講話、タグラグビー体験

(イ) 実績

事業開始年度：平成 28 年度

実施校：延べ 72 校（4 か年計 ※令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止

(ウ) トップアスリートの関わり

大会前は元ラグビー日本代表、大会後は横浜キヤノンイーグルスの選手、スタッフ（元選手）が児童に直接指導



横浜キヤノンイーグルススタッフによる講話



元ラグビー日本代表・廣瀬俊朗氏による
タグラグビー体験

イ ヒーローズカップ

(ア) 概要

目的：大会に向けた機運醸成、小学生世代唯一のミニラグビー全国大会誘致によるラグビー
レガシーの継承

内容：日本一を決定する決勝大会の誘致、実施

主催：NPO 法人ヒーローズ

共催：横浜市市民局

後援：スポーツ庁ほか

(イ) 実績

第 11 回大会（平成 30 年度）から毎年横浜で開催

参加人数：全国から 16 チーム、400 人超の選手の参加

(ウ) トップアスリートの関わり

主催者代表が、元ラグビー日本代表選手、元開催都市特別サポーター

実行委員会委員長に、歴代、元ラグビー日本代表選手が就任

大会に伴い、元ラグビー日本代表選手がクリニック（技術指導）を実施



日産スタジアムで開催された
第 13 回大会（令和 2 年度開催）

(2) オリンピック・パラリンピック関連

ア オリンピアン・パラリンピアン学校訪問事業

(ア) 概要

目的：大会に向けた機運醸成、スポーツ振興、多様性等の理解促進

実施内容：オリンピアン・パラリンピアンが学校を訪問し、講演や実技指導を行う。

(イ) 実績

事業開始年度：平成 26 年度

実施校：259 校

※毎年 53 校程度で実施

※令和 7 年度までに全市立小・中・特別支援学校（令和 3 年度時点で 496 校）で実施する計画。令和 3 年度末時点で、6 割（312 校）の学校で実施完了予定。

(ロ) トップアスリートの関わり

オリンピアン、パラリンピアンが学校を訪問し、児童・生徒と直接触れ合う機会を創出



【三阪洋行さん（車いすラグビー）による新吉田小学校訪問】



【石川直宏さん（サッカー）による丸山台中学校訪問】

イ イベント等への派遣事業

(ア) 概要

目的：大会に向けた機運醸成、スポーツ振興

実施内容：市内のイベント等にトップアスリートを招へいし、体験会等を実施する。

(イ) 実績（直近）

項目	実績		
	H30	R 元	R2
横浜スポーツ・レクリエーションフェスティバルへの派遣	10	9	6
トライアスロン大会等への派遣	6	7	5
パラリンピック競技体験（イベントブース出展）	2	※1	※2

※1 台風の影響によりイベント開催中止となったため。

※2 新型コロナウイルス感染症の影響によりイベント開催中止となったため。

(ロ) トップアスリートの関わり

オリンピアン・パラリンピアン等のトップアスリートを招へいし、市民と直接触れ合い、大会での活躍を PR する機会を創出



【トライアスロン大会でのトップアスリートトークショー】

ウ パラリンピック競技の普及啓発事業

(ア) 概要

目的：スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築に向けた理解促進

実施内容：パラスポーツ体験、パラアスリート講演、アスリートを支える人による講演

(イ) 実績

事業開始年度：令和元年度

実施校：令和元年度 23 件、令和 2 年度 42 件実施

（オリンピック・パラリンピック教育推進校等と連携）

(ウ) トップアスリートの関わり

パラリンピアンズ協会等を通じて学校にトップアスリートを招へいし、講演等を行うほか、パラスポーツの体験会やアスリートを支える人による講演など、様々な角度から児童・生徒がパラスポーツに触れる機会を創出している。



【落合啓士さん（ブラインドサッカー）によるパラスポーツ体験会（山内中学校）】



【初瀬勇輔さん（パラ柔道）によるパラリンピアン講演（元街小学校）】



【根木慎志さん（車いすバスケット）による
パラリンピアン講演（菊名小学校）】



【三宅克己さん（車いすバスケット）による
パラリンピアン講演（牛久保小学校）】



【米岡聡さん（パラトライアスロン）、ガイド椿浩平さん
による支える人を知る講演（万騎が原小学校）】



【田中章仁さん（ブラインドサッカー）による
ワークショップ（神奈川小学校）】

参加した児童・生徒の主な声

- ・ボッチャは、最初はかんたんなスポーツだと思っていたけれど、やってみるとすごく頭を使ってむずかしいスポーツだと気づきました。でもすごく楽しかったです。
- ・選手が言っていた「人と同じことだけをしていてはダメだ」という言葉が印象に残りました。大きな夢を実現するためには人よりも努力することが大切だということを知りました。
- ・「夢はいつでも変えることができる」「コントロールできないことは気にしない」という言葉が、話を聞いていて説得力がありました。これからも応援しています。
- ・すごい技をするためには前転や後転などの基本の技をしっかりとやることが大切だということを知りました。
- ・体にしょうがいがあるからといって、スポーツを楽しむことができないことはないということが分かりました。
- ・しょうがいがある人も、ない人も楽しめるボッチャを考えた人は天才だと思いました。
- ・いつも気付いていてもなかなか行動に移せないけど、勇気を出してみようと思った。
- ・障害がある人も一緒に工夫してスポーツができることを知り、自分も頑張ろうと思った。

4 学校教育におけるトップアスリートの活躍の場

東京 2020 オリンピック・パラリンピック開催を契機として、大会の意義を理解し、児童生徒の運動やスポーツに取り組む意欲の向上や、大会開催に向けたホスピタリティの醸成を目的として、市が主催する体育行事等の場にトップアスリートを招き、児童生徒との交流に取り組んでいます。

トップアスリートには、自身の体験談や、スポーツに関わるメッセージをいただいたり、模範演技を披露していただいたりすることを通して、スポーツの素晴らしさ、生涯をとおしてスポーツに関わることの大切さを発信していただきます。

(1) 小学校体育実技発表会

ア 概要

例年 11 月末～12 月初旬頃に実施。横浜市の小学生が、①器械運動、②表現運動、③体づくり運動の 3 分野のうちいずれか 1 分野で、学年や学級等の集団で実技発表を行う大会。

令和 3 年度は第 60 回を実施予定（12 月 1 週目）。

イ 参加対象

市内 18 区から小学校代表校各区 1 校の代表児童（約 1,000 人）が参加。

ウ アスリートの関わり

トップアスリートからは、児童に対して、運動に関わることの楽しさや素晴らしさ、夢を追うことの大切さなどを、自身の体験談などを基に話してもらい、模範演技を披露いただく。



【山室 光史さん（体操）による
講演・模範演技披露（体育実技発表会）】(R1)

（参考：近年の出演実績）

令和元年度	山室 光史 氏	2012 ロンドン五輪 男子体操 団体総合銀メダル 2016 リオ五輪 男子体操 団体総合 金メダル
平成 30 年度	かんばら けんた 氏	2016 リオ五輪閉会式 パフォーマー出演 2020 東京パラ閉会式 パフォーマー出演
平成 29 年度	日本体育大学体操部 90 名	ドイツ国際体操祭 2017 第 5 回アジア体操祭

(2) 中学校総合体育大会（閉会式）

ア 概要

例年 11 月初旬頃に実施。春から 16 種目・18 競技で行っている市内中学校運動部活動の大会である「横浜市中学校総合体育大会」の閉会式。

令和 3 年度は第 70 回を実施予定（11 月）。

イ 参加対象

市内中学校の代表生徒、各運動部代表生徒及び優勝校代表生徒、体育活動優秀生徒（約 2,000 人）が参加。

ウ アスリートの関わり

運動部で活動する生徒に対して、自身の中学生時代の部活動経験やオリンピックなどの大会への想い、中学校総合体育大会出場選手へのメッセージを話してもらい、模範演技を披露いただく。



【長谷川 大悟さん（陸上）による
講演・模範演技披露（中総体閉会式）】（R1）



【YOKOHAMA DREAMER（車いすバスケット）による
講演・模範演技披露（中総体閉会式）】（H30）

(3) 中学校部活動合同練習会

ア 概要

市立中学校部活動の合同練習会にトップアスリートを招き、参加生徒が直接、指導を受ける。

イ 参加対象

当該種目・競技の部活動に所属する生徒

※令和元年度：新体操、ソフトボール、バドミントンの各部で実施

ウ アスリートの関わり

当該種目・競技で活動する中学校生徒が、トップアスリートから直接、指導を受けることで、自らの今後の活動に活かすと同時に、トップレベルの技術を目の当たりにすることで刺激を受け、活動に対するモチベーションが高まる。



【バドミントン部合同練習会
（日立情報通信エンジニアリングバドミントンチーム）】



【ソフトボール部合同練習会
（日立ソフトボール部 日立サンディーバ）】